

施策番号	1223		
施策名	障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援		
概要	障害のある子どもの保育環境の向上や学童クラブ事業における障害のある子どもの受入体制の充実を図るとともに、養護に欠ける子どもの子育て支援を充実する。		
担当局	保健福祉局	共管局	なし
上位政策	122 子どもを安心して産み育てる		

### 施策の評価

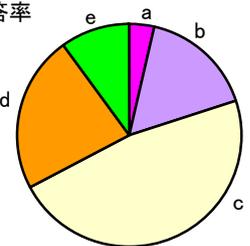
#### 1 客観指標評価

	18年度	19年度	20年度評価				
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 障害児保育実施児童数（人）	a	a	97.4	101.2	176.5	57.3%	a
2 障害児保育実施箇所数（箇所）	a	a	26.6	29.1	37.0	78.6%	a
3 障害児施設の設置数（箇所）	b	a	16	16	-	-	a
4 総合療育事業月平均利用者数（人）	a	b	176	155	177	87.6%	c
5 学童クラブ事業における障害のある児童の利用者数（人）	b	a	259	291	259	112.4%	a
6 -	-	-	-	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-	-	-	-
	a	a	客観指標総合評価				a

#### 2 市民生活実感評価

設問	障害のある子どもや保護者の養護が足りない子どもに対する子育て支援が十分に行われている。					
回答	18		19		20	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a: そう思う	13	2.8%	13	3.1%	22	3.5%
b: どちらかというと思う	92	19.9%	65	15.4%	104	16.6%
c: どちらとも言えない	189	40.8%	217	51.4%	295	47.1%
d: どちらかというと思わない	109	23.5%	83	19.7%	143	22.8%
e: そう思わない	60	13.0%	44	10.4%	62	9.9%
有効回答数	463		422		626	
市民生活実感評価	C		C		C	

20回答率



- a: そう思う
- b: どちらかというと思う
- c: どちらとも言えない
- d: どちらかというと思わない
- e: そう思わない

\* この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

### 3 総合評価（客観指標総合評価＋市民生活実感評価）

	18	19	20
客観指標総合評価	a	a	a
市民生活実感評価	c	c	c
総合評価	B	B	B
重み付け		(理由)	
<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	<input type="checkbox"/> 市民の実感	対象者が限られた施策であり、市民の生活実感に施策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標総合評価を重視する。	

### 4 原因分析・今後の方向性

客観的評価においては、5項目中4項目でa評価を得ることができ、客観指標総合評価において、前年度に引き続きa評価となった。市民生活実感評価においては、結果的にはc評価と前年度と変わっていないが、少しずつではあるが評価が上がってきている。総合評価としては、前年度から変化なく、引き続きB評価となった。施策の対象者が限られているために市民の生活実感に施策の効果が反映されにくい、粘り強く障害児関係施策の充実が、市民の皆様に評価いただけるよう、努める。

#### (参考) この施策実現のための主な事務事業

	事業名	19年度予算 (千円)*	20年度予算 (千円)*	19年度事務事業評価に おける今後の方向性	担当部・課
1	障害児保育対策	354,717	354,717	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部保育課
2	児童福祉施設措置費（児童）	39,629	38,631	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
3	子育て支援短期利用事業	66,721	71,806	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
4	学童クラブ障害児対策	76,126	73,184	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
5	児童福祉施設単費援護事業	21,801	21,607	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
6	養護施設・母子生活支援施設育成事業	1,581	1,655	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
7	児童自立支援施設 府立淇陽学校 運営負担金	54,986	54,986	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
8	自立援助ホーム運営補助	19,665	19,440	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
9	障害のある児童のサマーステイ事業	10,374	8,072	現状のまま継続	保健福祉局子育て支援部児童家庭課
10	在宅心身障害児育成事業、児童福祉啓発事業	5,119	5,119	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
11	心身障害児（者）歯科治療助成	598	598	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
12	心身障害児（者）グループ訓練事業	4,675	4,675	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
13	在宅心身障害児（者）療育キャンプ事業	2,483	2,483	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課

14	発達障害者支援センター運営事業	49,105	48,893	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課, (児童福祉センター)
15	民間社会福祉施設援護費 (障害児 (者), 児童施設)	515,126	492,160	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課, 子育て支援部児童家庭課
16	児童福祉施設措置費 (障害児施設給付費)	40,637	29,454	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
17	心身障害児福祉会館管理運営	48,367	47,944	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
18	京都市障害児タイムケア事業	29,218	0	終了	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
19	京都市障害児タイムケア事業	62,048	71,842	現状のまま継続	保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課
20	総合療育事業「カンガルー」「こうさぎ」「ライオン」運営	130,968	130,968	現状のまま継続	保健福祉局児童福祉センター
合計		1,533,945	1,478,236		
うち, 主たる事業の合計 (従たる事業の合計)		1,533,945 (0)	1,478,236 (0)		

\* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む

施策名	1223	障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援
-----	------	--------------------------

指標名	障害児保育実施児童数（人）	
-----	---------------	--

担当課	保育課	連絡先	251-2390
-----	-----	-----	----------

### 1 指標の説明

障害のある児童の保育所入所数（就学前児童10,000人当たり）

### 2 指標の意味

障害のある児童の家庭のニーズに応じた支援の状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

各施設の障害児数の合計を就学前児童10,000人当りに換算 出典：事業担当課調査

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	97.4	101.2	3.8人増	176.5	政令指定都市第1位	57.3%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値	政令指定都市2位	-	-	-	-

備考	-
----	---

### 5 評価基準

政令指定都市順位が  
a：1位～3位  
b：4位～6位  
c：7位～9位  
d：10位～12位  
e：13位～

### 6 基準説明

大都市間の受入水準の比較で評価することとし、政令指定都市順位の1位から最下位を5段階に区分することで基準を設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
a	a	a

指標名	障害児保育実施箇所数（箇所）	
-----	----------------	--

担当課	保育課	連絡先	251-2390
-----	-----	-----	----------

### 1 指標の説明

障害のある児童の受入れ保育所数（就学前児童10,000人当たり）

### 2 指標の意味

障害のある児童の家庭のニーズに応じた支援の状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

障害児を受け入れている保育所の合計を就学前児童10,000人当りに換算 出典：事業担当課調査

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	26.6	29.1	2.5箇所増	37.0	政令指定都市1位	78.6%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値	政令指定都市2位	-	-	-	-

備考	-
----	---

### 5 評価基準

政令指定都市順位が  
a：1位～3位  
b：4位～6位  
c：7位～9位  
d：10位～12位  
e：13位～

### 6 基準説明

大都市間の受入水準の比較で評価することとし、政令指定都市順位の1位から最下位を5段階に区分することで基準を設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
a	a	a

施策名	1223	障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援
-----	------	--------------------------

指標名	障害児施設の設置数（箇所）	
-----	---------------	--

担当課	障害保健福祉課	連絡先	2 2 2 - 4 1 6 1
-----	---------	-----	-----------------

**1 指標の説明**  
各年度当初における障害児施設の設置箇所数

**2 指標の意味**  
障害のある児童を安心して育てられる場の提供状況を示す指標

**3 算出方法・出典等**  
市内の障害児施設の箇所数（国立病院機構施設，府立施設を含む）

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	16	16	増減なし	-	-	-

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	3位	-	-	-	-	-

**5 評価基準**  
政令指定都市順位が、  
a：1位～3位  
b：4位～6位  
c：7位～9位  
d：10位～12位  
e：13位～15位

**6 基準説明**  
人口に対する設置箇所数を大都市間で比較し，政令指定都市の順位の1位から最下位を5段階に区分して基準を設定した。  
1位（北九州市）：7万人に1施設  
最下位（さいたま市）：24万人に1施設（平成18年度現在）

**7 評価結果**

18	19	20
b	a	a

指標名	総合療育事業月平均利用者数（人）	
-----	------------------	--

担当課	障害保健福祉課	連絡先	2 2 2 - 4 1 6 1
-----	---------	-----	-----------------

**1 指標の説明**  
京都市児童療育センターで実施している総合療育事業の月平均利用者数

**2 指標の意味**  
障害のある児童に対する早期療育の実施状況を示す指標

**3 算出方法・出典等**  
各月の初日在籍児数を年間で平均して算出  
出典：総合療育事業事業報告書

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	176	155	21人減	177	過去5年間の最高値	87.6%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						-

**5 評価基準**  
最新の数値が  
a：過去5年間の最高値以上  
b：過去5年間の最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間  
c：過去5年間の上中間と平均値の間  
d：過去5年間の平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間  
e：過去5年間の下中間以下

**6 基準説明**  
利用者数は毎年変動するものであり，一定安定的な数字と比較する必要があるため，過去5年間の数値を基に，最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。  
最高値：177（平成17年度）  
平均値：146.4  
最低値：93（平成15年度）

**7 評価結果**

18	19	20
a	b	c

施策名	1223	障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援
-----	------	--------------------------

指標名	学童クラブ事業における障害のある児童の利用者数（人）
-----	----------------------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

### 1 指標の説明

児童館及び学童保育所において実施している、学童クラブ事業における障害のある児童の登録数の合計

### 2 指標の意味

障害のある昼間留守家庭児童及びその保護者に対する支援の状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

年度当初における登録数の合計  
(出典：各施設からの報告)

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	259	291	31人増	259	過去5年間の最高値	112.4%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値	-	-	-	-	-

備考	-
----	---

### 5 評価基準

最新の数値が  
a：過去5年間の最高値以上  
b：過去5年間の最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間  
c：過去5年間の上中間と平均値の間  
d：過去5年間の平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間  
e：過去5年間の下中間以下

### 6 基準説明

過去5年間の数値を基に、過去5年間の最高値以上をa、平均値以上をcとし、最低値も含めた按分で基準を設定した。  
最高値：259（平成18年度）  
平均値：208  
最低値：141（平成14年度）

### 7 評価結果

18	19	20
b	a	a